10月31日(木) 14:00-16:40

セッションチェアマン: 戸所 義博(イーセップ(株)・山崎 治(シャープフロンティアオートモーティブテクノロジー(株))

## ◆ 我が国のグリーントランスフォーメーションの加速に向けて



経済産業省 GX グループ GX 推進企画室 高畠 大樹

### [講演要旨]

我が国の GX 実現に向けては、2023 年 7 月に「GX 推進戦略」を閣議決定し、規制・支援一体型の新たな政策パッケージの実現・実行により、今後 10 年間で 150 兆円超の官民 GX 投資を実現していく。成長志向型カーボンプライシング構想を具体化し、GX 経済移行債を活用した 20 兆円規模の投資促進策をはじめ、企業の GX 投資の検討・実行の促進を行う。本発表では、GX 実現に向けた各政策の詳細と、今後の動向について述べる。

## [講演者プロファイル]

令和4年経済産業省入省。製造産業局自動車課を経て、現在 GX グループ GX 推進企画室に配属。 国内のカーボンクレジット制度である J – クレジット制度の運営、カーボンフットプリントの算定整備等を担当。

### ◆ 積水化学工業が進めるフィルム型ペロブスカイト太陽電池の製品開発状況と社会実装に向けた検討



積水化学工業㈱ PVプロジェクトヘッド 森田 健晴

### [講演要旨]

独自技術である「封止、成膜、材料、プロセス技術」を活かし、フィルム型ペロブスカイト太陽電池開発の肝といわれる屋外耐久性において 10 年相当を確認し、30cm 幅のロール・ツー・ロール製造プロセスを構築しました。 さらに、同製造プロセスによる発電効率 15.0%を達成し、さらなる耐久性や発電効率の向上、1m 幅の製造技術の確立に向けて開発を加速させています。本講演では当社の製品開発状況と社会実装に向けた取組みについてご報告させていただきます。

## [講演者プロファイル]

1992 年積水化学入社 高分子材料の研究開発を担当、2006 年より 同社高機能プラスチックスカンパニ

-機能樹脂事業部開発主幹を担当、2009 年 NEDO 新エネルギー部 太陽電池 G 出向、2011 年に積水化学に戻り有機/無機ハイブリッド材料を用いたフレキシブル太陽電池を研究開発、2013 年よりフィルム型ペロブスカイト系太陽電池の研究開発を開始し、2024 年より PV プロジェクトヘッド(社長直轄)を担当、現在に至る。

# ◆ カーボンニュートラルに向けた自動車技術に関する将来展望



早稲田大学 名誉教授 研究院 次世代自動車研究機構研究所 顧問大聖 泰弘

### [講演要旨]

2030 年を超え 2050 年を目指す自動車分野におけるカーボンニュートラルのための対策が求められている。具体的には、エンジン車の燃費改善から、ハイブリッド車、プラグイン・ハイブリッド車、バッテリ電気自動車 (BEV)、燃料電池自動車等への転換、さらにはそれらにおける再エネによる電力や水素、合成燃料の利用が不可欠とされている。そこで本講演では、これらに関わる中長期的な技術課題とその解決の方向性について展望する。

#### [講演者プロファイル]

1976年、早稲田大学大学院理工学研究科博士課程を終え、助手、講師、助教授を経て、1985年、同大理工学部教授に就任。2017年に同大を定年退職し、早稲田大学名誉教授、次世代自動車研究機構研究所顧問となり、現在に至る。

研究面では、エンジンの燃焼,排気浄化,高効率化,新燃料の利用技術、電気自動車、ハイブリッド車、燃料電池車の製作と性能評価等の研究に取り組む。

自動車技術会副会長(2004~06 年)、国際自動車技術学会連盟副会長(2008~12 年)を務め、 長年にわたって経産省、国交省、環境省の審議会委員や国の自動車排出ガス規制や燃費基準の策 定等に関わる。最近では、経産省・国交省「カーボンニュートラルに向けた自動車政策検討会」(2021 年度)、経産省「モビリティ水素官民協議会」(2022 年度~)の各座長を務める。

※本講演に興味を持たれた方は、こちらの講演もご覧になっています。

【A-2】 カーボンリサイクル

【A-3】 パワーエレクトロニクス